桃太郎（6）

こういいながら、おじいさんはわらじをぬいで、上に上がりました。その間に、おばあさんは戸棚の中からさっきの桃を重そうにかかえて来て、

「ほら、ごらんなさいこの桃を。」

と言いました。

「ほほう、これはこれは。どこからこんなみごとな桃を買って来た。」

桃太郎（7）

「いいえ、買って来たのではありません。今日川で拾って来たのですよ。」

「え、なに、川で拾って来た。それはいよいよめずらしい。」

　こうおじいさんは言いいながら、桃を両手にのせて、ためつ、すがめつ、ながめていますと、だしぬけに、桃はぽんと中から二つに割れて、

桃太郎（8）

「おぎゃあ、おぎゃあ。」

　と勇(いさま)しいうぶ声を上げながら、かわいらしい赤さんが元気よくとび出しました。

「おやおや、まあ。」

　おじいさんも、おばあさんも、びっくりして、二人いっしょに声を立てました。

「まあまあ、わたしたちが、へいぜい、どうかして子供が一人ほし

桃太郎（9）

い、ほしいと言っていたものだから、きっと神さまがこの子をさずけて下さったにちがいない。」

　おじいさんも、おばあさんも、うれしがって、こう言いました。

　そこであわてておじいさんがお湯をわかすやら、おばあさんがむつきをそろえるやら、大さわぎをして、赤さんを抱き上げて、うぶ湯をつかわせました。するといき

桃太郎（10）

なり、

「うん。」

　と言いながら、赤さんは抱いているおばあさんの手をはねのけました。

「おやおや、何という元気のいい子だろう。」

つづく